

四 半 期 報 告 書

(第50期第 1 四半期)

株式会社福山コンサルタント

福岡県福岡市博多区博多駅東三丁目 6 番18号

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社福山コンサルタント

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
2 【その他】	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	15

【表紙】	
【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第50期第1四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
【会社名】	株式会社福山コンサルタント
【英訳名】	FUKUYAMA CONSULTANTS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山 本 洋 一
【本店の所在の場所】	福岡県福岡市博多区博多駅東三丁目6番18号
【電話番号】	092(471)0211(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営企画室長 福 島 宏 治
【最寄りの連絡場所】	福岡県福岡市博多区博多駅東三丁目6番18号
【電話番号】	092(471)0211(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営企画室長 福 島 宏 治
【縦覧に供する場所】	株式会社福山コンサルタント東日本事業部 (東京都文京区後楽二丁目3番21号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第 1 四半期 連結累計期間	第50期 第 1 四半期 連結累計期間	第49期
会計期間	自 平成22年 7 月 1 日 至 平成22年 9 月30日	自 平成23年 7 月 1 日 至 平成23年 9 月30日	自 平成22年 7 月 1 日 至 平成23年 6 月30日
売上高 (千円)	388,796	267,488	5,458,071
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△297,724	△341,499	178,191
当期純利益又は四半期 純損失(△) (千円)	△207,303	△243,860	53,204
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	△203,077	△249,808	65,670
純資産額 (千円)	2,780,038	2,764,424	3,048,648
総資産額 (千円)	4,210,937	4,227,940	4,163,539
1 株当たり当期純利益 金額又は四半期純損失 金額(△) (円)	△48.88	△57.50	12.55
潜在株式調整後 1 株当 たり四半期 (当期) 純 利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	66.0	65.4	73.0

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含まれていません。

3 潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期) 純利益金額については、1 株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

4 第49期第 1 四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年 6 月30日)を適用し、遡及処理しています。

2 【事業の内容】

当第 1 四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものです。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、震災の復旧・復興が本格化してきましたが、長期化する円高や株価の下落に加え、欧州諸国の財政問題が深刻度を増すなど、依然として不透明な状況で推移しました。

当社グループの属する建設コンサルタント業界においては、公共事業に対する必要性は認められつつあるものの、地方自治体を中心に予算執行の遅れが見られ、厳しい受注競争は常態化しています。

このような状況の中で、当社グループは技術競争力の強化を基本施策として、点検から診断・対策までワンストップでソリューションを提案するバリューチェーン型の組織・事業展開によって、技術並びにマーケット開拓を進め、受注の拡大と品質の確保を最重要課題として業績の向上に努めています。また、震災に対する復旧・復興支援業務については、全グループを挙げて東北事業部(仙台)に人材を投入するなど積極的に対応しています。

なお、当社グループは、官公庁の会計年度末に完了・納入する業務が大半を占める関係上、売上高は第4四半期に集中します。そのため、例年第3四半期までは経常損失、第4四半期で経常利益となることが常態となっています。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の受注高は34億80百万円(前年同期比1.7%減)となりましたが、売上高は当第1四半期に完成予定としていた業務が工期延長になったことが響き2億67百万円(同31.2%減)となりました。一方、損益面では、経常損失は3億41百万円(前年同期は経常損失2億97百万円)、四半期純損失は2億43百万円(同四半期純損失2億7百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

(総資産)

総資産は前連結会計年度末に比べて64百万円増加し、42億27百万円となりました。主な要因は、未成業務支出金の増加5億67百万円と受取手形・完成工事未収入金の減少4億83百万円です。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べて3億48百万円増加し、14億63百万円となりました。主な要因は、短期借入金の増加5億70百万円です。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて2億84百万円減少し、27億64百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少2億77百万円です。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は10百万円です。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,259,200	4,259,200	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株です。
計	4,259,200	4,259,200	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年9月30日	—	4,259,200	—	589,125	—	543,708

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期連結会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年6月30日の株主名簿により記載しています。

① 【発行済株式】

(平成23年6月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 18,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,212,000	4,212	—
単元未満株式	普通株式 29,200	—	—
発行済株式総数	4,259,200	—	—
総株主の議決権	—	4,212	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」および「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ2,000株(議決権の数2個)および200株含まれています。

2 「単元未満株式」には当社保有の自己株式が、445株含まれています。

② 【自己株式等】

(平成23年6月30日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社福山 コンサルタント	福岡市博多区博多駅東 三丁目6番18号	18,000	—	18,000	0.42
計	—	18,000	—	18,000	0.42

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しています。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 6 月 30 日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月 30 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	613,895	480,433
受取手形・完成工事未収入金	657,066	173,874
未成業務支出金	381,846	949,250
その他	53,609	159,629
貸倒引当金	△4,516	△4,401
流動資産合計	1,701,901	1,758,786
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	629,823	632,272
土地	1,059,728	1,059,728
その他（純額）	143,020	151,519
有形固定資産合計	1,832,572	1,843,521
無形固定資産		
のれん	142,141	137,604
その他	37,354	41,215
無形固定資産合計	179,496	178,820
投資その他の資産		
その他	455,368	452,612
貸倒引当金	△5,800	△5,800
投資その他の資産合計	449,568	446,812
固定資産合計	2,461,638	2,469,154
資産合計	4,163,539	4,227,940
負債の部		
流動負債		
業務未払金	141,210	51,446
短期借入金	180,000	750,000
未払法人税等	110,598	13,185
未成業務受入金	116,490	175,968
賞与引当金	—	67,691
受注損失引当金	17,300	29,530
その他	394,016	215,490
流動負債合計	959,616	1,303,312
固定負債		
退職給付引当金	64,957	65,741
役員退職慰労引当金	66,282	70,081
その他	24,034	24,381
固定負債合計	155,274	160,204
負債合計	1,114,890	1,463,516

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 6 月30日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	589,125	589,125
資本剰余金	543,708	543,708
利益剰余金	1,926,579	1,648,793
自己株式	△5,667	△5,667
株主資本合計	3,053,745	2,775,959
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△12,848	△11,535
その他の包括利益累計額合計	△12,848	△11,535
少数株主持分	7,751	—
純資産合計	3,048,648	2,764,424
負債純資産合計	4,163,539	4,227,940

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	388,796	267,488
売上原価	401,291	305,262
売上総損失(△)	△12,494	△37,774
販売費及び一般管理費	286,500	305,437
営業損失(△)	△298,995	△343,212
営業外収益		
受取利息	564	531
その他	1,818	2,620
営業外収益合計	2,383	3,151
営業外費用		
支払利息	1,091	1,357
その他	21	81
営業外費用合計	1,112	1,438
経常損失(△)	△297,724	△341,499
特別利益		
貸倒引当金戻入額	205	—
その他	218	—
特別利益合計	423	—
特別損失		
固定資産除売却損	301	2,613
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	11,698	—
特別損失合計	11,999	2,613
税金等調整前四半期純損失(△)	△309,300	△344,112
法人税、住民税及び事業税	11,348	10,434
法人税等調整額	△121,367	△103,425
法人税等合計	△110,018	△92,991
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△199,282	△251,121
少数株主利益又は少数株主損失(△)	8,021	△7,261
四半期純損失(△)	△207,303	△243,860

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△199,282	△251,121
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,795	1,312
その他の包括利益合計	△3,795	1,312
四半期包括利益	△203,077	△249,808
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△211,099	△242,547
少数株主に係る四半期包括利益	8,021	△7,261

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。
--

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期連結会計期間に完成する業務の割合が大きいと、第3四半期連結会計期間までの各四半期連結会計期間の売上高と第4四半期連結会計期間との売上高に著しい相違があり、業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	
減価償却費	29,536千円	減価償却費	26,060千円
のれん償却額	3,953千円	のれん償却額	4,537千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年9月28日 定時株主総会	普通株式	33,933	8.0	平成22年6月30日	平成22年9月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年9月28日 定時株主総会	普通株式	33,926	8.0	平成23年6月30日	平成23年9月29日	利益剰余金

- (2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、建設コンサルタント事業における6つの事業分野（交通系・地域系・環境マネジメント系・リスクマネジメント系・ストックマネジメント系・コンストラクションマネジメント系）を営む単一事業の企業集団であることから、記載を省略しています。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額(△)及び算定上の基礎

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成22年 7 月 1 日 至 平成22年 9 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 7 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
1 株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△48. 88	△57. 50
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(△) (千円)	△207, 303	△243, 860
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額 (△) (千円)	△207, 303	△243, 860
普通株式の期中平均株式数(千株)	4, 241	4, 240

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月7日

株式会社福山コンサルタント

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 工 藤 重 之 印
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 馬 場 正 宏 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社福山コンサルタントの平成23年7月1日から平成24年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社福山コンサルタント及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。